

## 工事竣工図面作成要領 (配水管布設工事標準仕様書第 25 条第 2 項第 14 号関係)

### 1. 目的

この要領は、配水管工事の監督及び検査の適正化をはかるため、工事竣工図面の作成について基本的な事項を定めるものとする。

### 2. 作成計画

請負者は、工事竣工に伴い下記の要領にて竣工図面を工事別ごとに作成し、所定の部数を工期内に提出しなければならない。

#### ① 図面サイズ

- ・ A 1 又は A 2 (工事規模によっては監督職員の指示により A 3 でも可)

#### ② 平面図 (配水管分・給水管分・消火栓設置替分)

- ・ 縮尺は 1 : 500 又は 1 : 250 を原則とする。
- ・ 北を上側にすることを標準とし、方位を記入すること。
- ・ 地形図をベースとし、家屋・道路・河川等の名称も記入すること。
- ・ 既設、新設管路・仕切弁・消火栓・給水管・止水栓・量水器等の位置も記入すること。
- ・ B P、E P、各ポイント (40m 間隔) 等も記入すること。
- ・ 管種、管口径ごとの管芯延長距離及び、実測平面距離をカッコ書きで記入すること。
- ・ 線の強弱バランスを考えること。

#### ③ 配水管詳細図 (配水管分)

- ・ 縮尺を記入すること。
- ・ 詳細図は、平面図と対照できるように作成すること。
- ・ 管記号より引き出し線を引き、材料名及び材料寸法 (ミリ単位) を記入すること。
- ・ B P、E P、曲管、T 字管、弁類、消火栓等間の各寸法を記入し、実測平面寸法は、カッコ書きで記入すること。
- ・ 既設管の管種、口径も記入しておくこと。
- ・ 線の強弱バランスを考えること。
- ・ K 形、N S 形、G X 形の場合には、継手チェックシートと対照出来るよう、継手部記号上に継手管理番号を記入しておくこと。

#### ④ 案内図 (配水管分・給水管分・消火栓設置替分)

- ・ 原則として、北を上側にすること。
- ・ 施工区間を表示すること。

⑤ 横断図（配水管分）

- ・縮尺を記入すること。
- ・測量及び記入箇所は、BP、EP、各ポイント（40m間隔）等を基準とする。
- ・道路幅員及び構造物等の寸法を正確に記入し、管芯・管上寸法は実測値を記入すること。
- ・他の埋設物が確認できた場合には、すべて表示しておくこと。
- ・線の強弱バランスを考慮すること。

⑥ 復旧図（配水管分・給水管分・消火栓設置替分）

- ・縮尺を記入すること。
- ・実際に復旧した路盤構成図を記入すること。
- ・線の強弱バランスを考慮すること。

⑦ オフセット測量図（配水管分・給水管分・消火栓設置替分）

- ・縮尺を記入すること。
- ・設置点については、BP・EP地点及び配水管の内異形管（曲管、T字管等）、水道施設構造物（弁類、消火栓等）、給水管の分岐地点及び公道に関わる曲管・弁類等とする。
- ・原則として基準点は3点からとし、測定方法については、配水管及び水道施設構造物等オフセット測量要領の4. 測定方法を参照すること。
- ・オフセット測量図は、現地と対照できるように作成すること。
- ・寸法単位はメートルで、小数点第2位までとすること。
- ・線の強弱バランスを考え、なおかつ引き出し線は、交差しないようにすること。

⑧ 縦断図（配水管分） ※ 平成20年度より、設計図にないものについては提出なし。

- ・縮尺を記入すること。
- ・BM（KBM）の位置及び基準高を平面図にも記入すること。
- ・BP、EP、各ポイント（40m間隔）等以外に、水道施設構造物（弁類、消火栓等）も表記すること。
- ・縦断図の追加距離は、詳細図の実測平面距離（カッコ書き）と相対させること。
- ・線の強弱バランスを考慮すること。

⑨ 給水管立面図（給水管分）

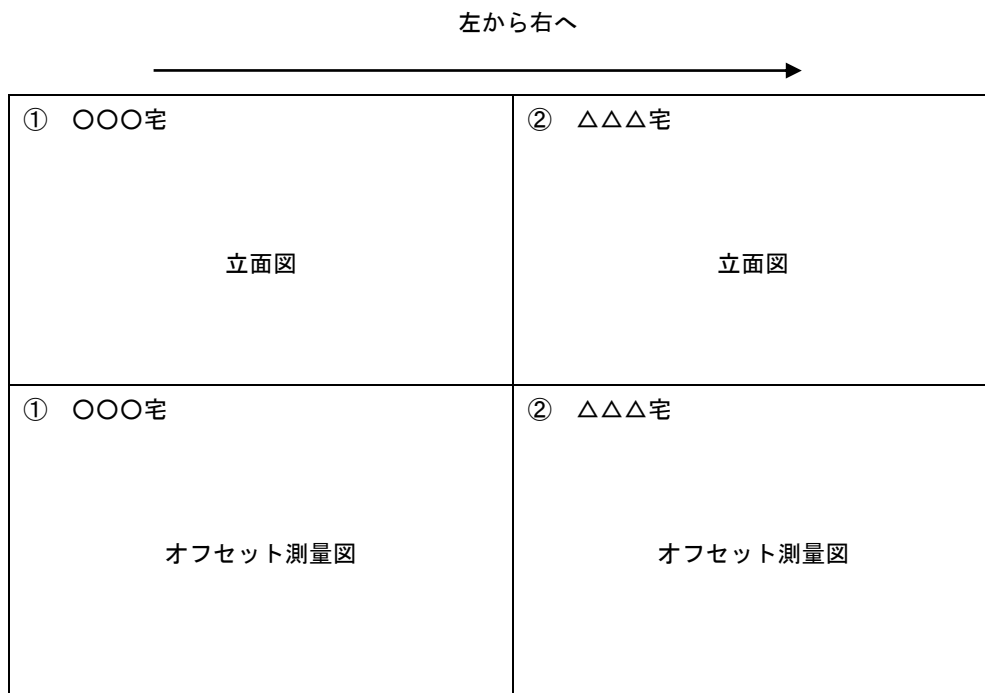
- ・縮尺を記入すること。
- ・立面図は30°で作成すること。
- ・分岐箇所本管部及び既設管等の口径も記入すること。
- ・各寸法に関しては、芯々寸法で測量及び記入すること。
- ・実測平面寸法は、カッコ書きで記入しておくこと。

・線の強弱バランスを考えること。

⑩ 消火栓等詳細図（配水管分・消火栓設置替分）

- ・縮尺を記入すること。
- ・材料の名称、及び各寸法を記入すること。
- ・口金からGLまでの距離も記入しておくこと。
- ・線の強弱バランスを考えること。

※ 給水管分の立面図・オフセット測量図の記入については、下記のように上下対照出来るように記入すること。



工事竣工図面作成要領

第1版 平成19年6月1日 発行

第2版 平成20年4月1日 改訂

第3版 令和6年4月1日 改訂